



# 研究倫理グループワーク 2

大阪大学全学教育推進機構

**中村 征樹**



# グループワーク 2 の概要

- **グループワーク実施にあたっての課題**

- グループワークを**適切に活用**するためにはどうすればよいか
- 学習目標・対象者によって、**どのようなグループワーク課題**が適切か、**どのような手法**が有効か
- 利用できる**時間・会場、参加者数**に応じたグループワークの設計

- **グループワーク 2 の目的**

- さまざまなタイプの**グループワーク課題**を試してみる
- さまざまな**発表形式**を実践してみる



# 研究公正の学習目標

		例) オーサーシップ
知識 Knowledge	研究公正の用語・概念・手順等についてきちんと把握・認識し、覚えていること。	ICMJEのオーサーシップの基準を答えられる
理解 Comprehension	研究公正の基本的事項を自分なりに解釈・咀嚼し、他者に説明できること。	オーサーシップがどういう意味をもつかを説明できる
適用 Application	研究公正の基本的な概念・原則を、個別具体的な状況に適用できること。	だれが論文著者になるべきかを説明できる
分析 Analysis	研究公正の事例について、研究公正の観点から整理・検討し、どのような問題であるかを明確に分析・説明できること。	不適切なオーサーシップ事案に直面したとき、なにが問題かを説明できる
総合 Synthesis	研究公正の観点を踏まえ、責任ある研究活動のみずから計画し遂行できること。	オーサーシップの問題を解決する方法を提示できる
評価 Evaluation	様々な価値規範・基準に依拠して、研究公正に関わる行為、さらには研究公正の原則を批判的に検討・評価できること。	現行のオーサーシップの基準を検討し、よりすぐれたオーサーシップのあり方を構想できる

# 教育手法と学習目標の対応

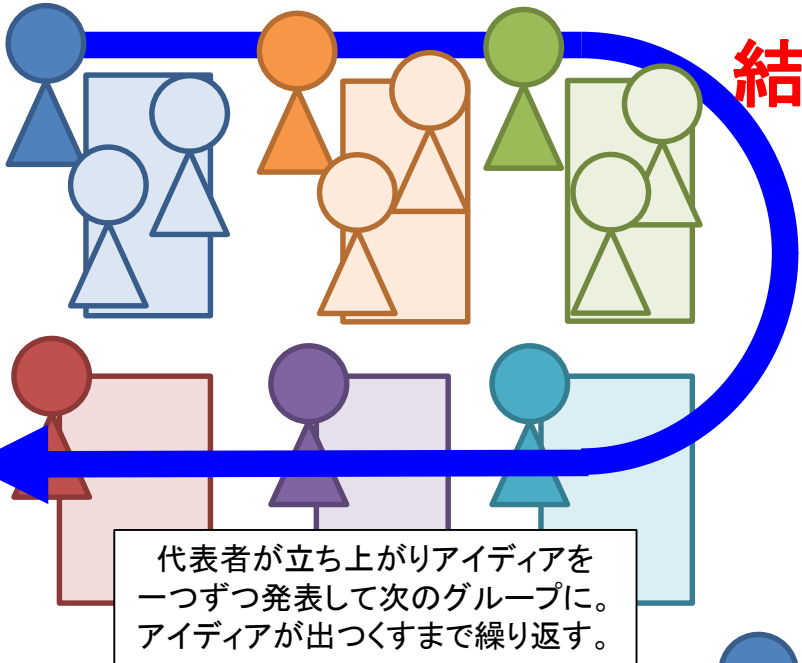
教育手法	知識	理解	適用	分析	総合	評価
講義	◎					
講義(マイクロ・インサクション)	○		◎	○		
eラーニング	◎		△			
双方向型講義	◎	◎	△	△	△	△
授業内ディスカッション		◎	△	△	△	△
ライティング演習		○	◎	○	○	
グループ学習		○	△	△	△	△
ピア評価		○		○		○
ケースメソッド			○	○	○	○
問題基盤型学習(PBL)	○	○	◎	◎	○	○
プロジェクト型学習(PBL)	○	○	◎	○	◎	○
ロールプレイ		○	◎	○		○
メンタリング(研究室での指導)	○	○	◎	○	◎	



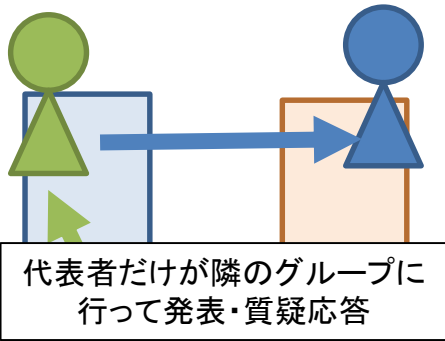
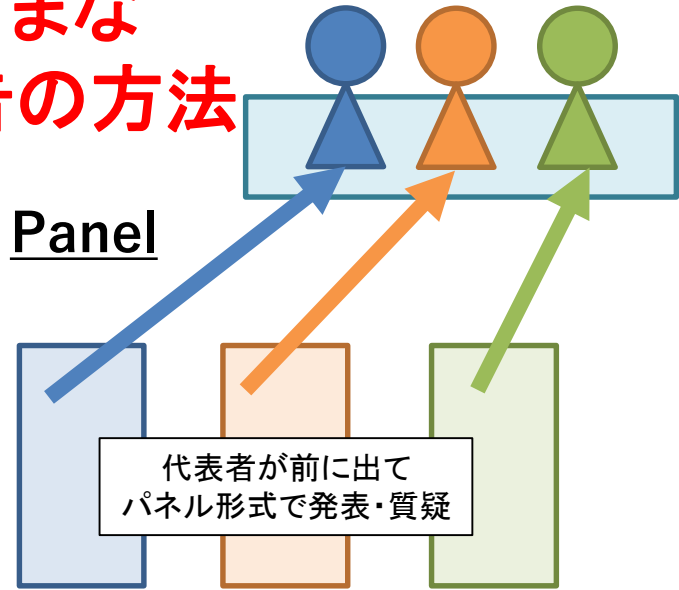
# グループワーク 2

説明・調整	4 二重投稿	発表 (Rotating Trio形式)	6 研究公正の取組	発表(パネル形式)	ふりかえり
	5 共著者	発表 (Rotating Trio形式)			

# Stand Up and Share



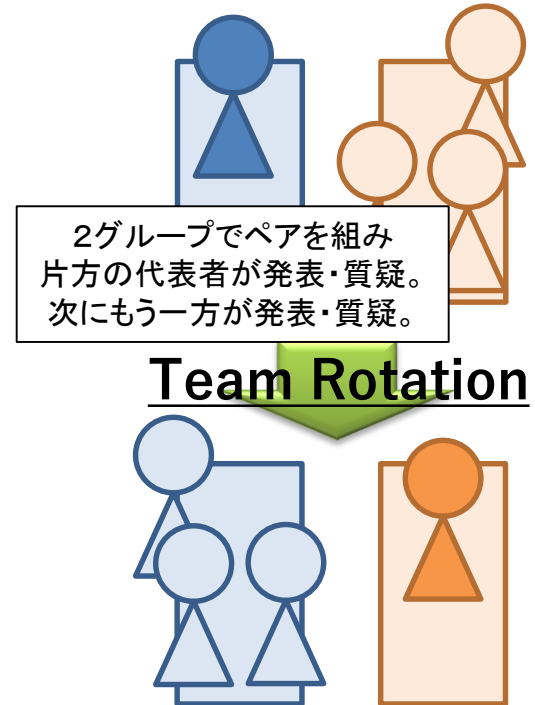
# さまざまな結果報告の方法



# Three Stay One Stray



# Rotating Trios





# 文献

- Bloom, Benjamin S., ed., 1956, *Taxonomy of Educational Objectives, Handbook I: The Cognitive Domain*, David McKay.
- バークレイ, エリザベス, パトリシア・クロス, クレア・メジャー(安永聡監訳), 2009, 『協同学習の技法：大学教育の手引き』ナカニシヤ出版.
- 中井俊樹編著, 2015, 『アクティブラーニング』（シリーズ大学の教授法 3）, 玉川大学出版部.
- Nilson, Linda B., 2016, *Teaching at its Best: A Research-Based Resource for College Instructors*, Fourth Edition, Jossey-Bass.

## 参考：大阪府立大学での実践報告（大学院必修科目として実施）

- 松室光, 2016, 「大学院共通教育科目「研究公正」の準備にたずさわって—その経緯と課題」『RI』（大阪府立大学 21世紀科学研究機構研究公正インスティテュート）, 1, 35-47. <http://hdl.handle.net/10466/14950>